

# 「ベジタス」1億食を突破

## 安全でおいしい野菜めざし

スプレッド

植物工場事業を展開するスプレッド（稲田信二社長、京都市下京区）は、同社が2008年から販売するリーフレタスのブランド「ベジタス」シリーズの累計販売数が昨年11月に1億食を突破したと発表した。



（左から）ポリューム感のあ  
る「フリンジレタス」、み  
みずしく歯切れの良い「フ  
リルレタス」、柔らかくほ  
かに甘みのある「プリー  
レタス」

ベジタスは、長年にわたり青果流通事業を手掛けてきた稲田社長が植物工場に出会い、年間を通じておいしく安全安心な野菜を供給しようと開発。現在は食感の異なる3品種を展開する。

複数の特許を取得した独自の水耕栽培方法により、野菜のおい

しさ・食感を追究。閉鎖型施設のため虫の混入などの心配がなく、農薬を使用せずに栽培できる。

苦みやえぐみが少なく、全品種でβ-カロテン含有量が緑黄色野菜の基準を満たしている。

栽培技術革新とオペレーション改善で低価格化を実現。発売当初258円だった店頭価格（実勢、税抜き）を11年に198円、19年には158円まで下げることが成功した。全国約5000の小売店や外食・中食の事業者に供給。このほか、生産工程中に取除かれる一部の葉を用いて、サステナブル商品「ちぎり」

を21年に発売した。

昨年は、滋賀銀行（高橋祥一郎頭取、本店1大津市）とサステナビリティ・リンク・ローン契約を締結し、総額6億円の資金を調達。国内で植物工場を主な事業として手掛ける事業者向けでは、初の案件となる。

同ローンは、企業の事業戦略に基づきサステナビリティに関連する目標（サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲッ

ト、SPT）を設定し、その達成度次第で貸付条件が連動する仕組み。

スプレッドは、SPTを、①同社が運営する亀岡プラント（京都府亀岡市）およびテクノファームけいはんな（木津川市）における労働生産性を18年度比30%向上させる②両植物工場の生産量当たりエネルギー使用量を21年度のレベルで維持しと設定した。